
一般論文

登降園バス内の保育者の役割

Clarifying the Roles and Responsibilities of Teachers on Kindergarten Buses

志 治 紗弥香 山 内 淳 子

Sayaka SHIJI Junko YAMAUCHI

概 要

園バス乗車中、保育者は、安全の確保、運転手との連携、個々の子どもへの配慮、教育活動等、多岐にわたる役割を果たしていることが推測される。しかしながら、園バス乗車中の保育者が実際にどのような役割を果たしているか詳細に分析した研究はない。そこで、本研究では、登降園バス内の保育者と子どもの様子の撮影記録の分析を通して、登降園バス内で保育者がどのような役割を果たしているのかについて明らかにしていくこととした。保育者Tと保育者Mのバス内での言動を分類した結果、大カテゴリーは「教育活動」「子ども同士の関係づくり」「安全への配慮」「体調への配慮」「情緒への配慮」「その他」の6となった。それらはさらに小カテゴリーに分類され、小カテゴリーは計28におよんだ。

I. 研究の目的

今日、多くの幼稚園・保育所等で園バスが利用されている。

園バスの利用については、運行時間が長時間に及んでいる実態（西村2012）とともに、子ども・保育者に体力的負担がかかること（八幡1999、西村2012）、保育時間に差が生じること（西村2012）などの課題が指摘されている。「本来地域社会と密着した保育を考えていくためには、遠くの施設に長い時間バスに乗っていくよりは、歩いて通える範囲の施設に行くことが子どもにとっての負担が軽減し、地域で育つことにつながる」（若月2014：162）といった園バス利用に否定的な見方もある。

他方で、園バスの利用は、「園側の単なるサービスの一環や保護者側の便利さの追求ではなく、子どもが成長していく上で大切な役割を担っている」（八幡1999：91）という肯定的な見方もある。八幡は、「園バスは子どもが出会う初めての家族

以外の異年齢集団の場」であり、「集団生活のルールを学び、挨拶等の基本的生活習慣、規則や礼儀のしつけに関わる基本的な学習体験をすると同時に親和的な情緒的体験をし、身につけていく」場であるとしている（八幡1999：91）。保育者を対象とした調査でも、大半の保育者が園バス内は「異年齢や他のクラスの子どもが交流できる場」「子どもが生活習慣や乗車のマナーを学ぶ場」であると考えていることが明らかにされている（西村2012：227）。こうした考えのもと、園バス内の保育活動に注目した研究もいくつかなされている（横井2003、浅野2005、菊池2015）。

園バス乗車中、保育者は、安全の確保、運転手との連携、個々の子どもへの配慮、教育活動等、多岐にわたる役割を果たしていることが推測される。しかしながら、園バス乗車中の保育者が実際にどのような役割を果たしているか詳細に分析した研究はない。そこで、本研究では、登園バス内の保育者、降園バス内の保育者と子どもの様子の

記録の分析を通して、登降園バス内で保育者がどのような役割を果たしているのかについて明らかにしていくこととした。

Ⅱ．研究の方法

調査日時は、2016年6月24日、7月1日である。調査対象は、Y県A幼稚園のT保育者（保育歴25年）、M保育者（保育歴37年）である。

2016年6月24日、T保育者が乗車する登園バス、降園バスそれぞれに同乗し、T保育者の言動をビデオカメラとボイスレコーダーで記録した。降園バス降車後、配慮している点について補足インタビューを行い、回答内容はボイスレコーダーで記録した。2016年7月1日には、M保育者に対し同

様の調査を実施した。記録内容は後日すべて文字化した。

その後、バス内の保育者の言動記録を、補足インタビューへの回答内容も参考にしつつ分類していった。

Ⅲ．研究の結果と考察

1. 登降園バス内の保育者の言動の分類・集計結果

表1は、保育者Tと保育者Mのバス内での言動を分類した結果である。大カテゴリー6、小カテゴリー28となった。園バス乗車中、保育者が「教育活動」「子ども同士の関係づくり」「安全への配慮」「情緒への配慮」など、多岐にわたる役割を果たしていることがわかる。

表1 登降園バス内での保育者の役割

		登 園		降 園	
		T	M	T	M
教 育 活 動	子どもの発言・質問の活用	○	○	○	○
	周囲の環境への着目	○	○	—	—
	その日・それ以降の活動への導入・意欲喚起	○	○	○	○
	その日・それ以前の活動の振り返り	—	○	○	○
	歌	○	—	—	—
	絵本	—	—	○	○
	挨拶	○	○	○	○
	マナー	○	—	—	—
子ども同士の関係づくり	同年齢交流	○	○	○	—
	バス内異年齢交流	○	○	○	○
	バス外異年齢交流	○	○	○	○
	トラブルの予測と回避	○	—	—	—
	座る位置の調整	○	—	—	—
安全への配慮	子どもへの事前予告	○	○	○	○
	子どもへの助言援助	○	○	○	○
	運転手との連携	○	○	—	○
体調への配慮	個々の子どもの体調の把握	○	○	—	○
	バス酔いしやすい子どもへの配慮	○	—	—	—
	眠い子どもへの配慮	—	—	○	○
情緒への配慮	歓迎ムードづくり	○	○	—	—
	だまっている子どもへの配慮	—	○	—	○
	不安定な子どもへの配慮	—	○	—	○
そ の 他	個々の子どもの発言への応答	○	○	○	○
	持ち物確認	○	○	○	○
	快適な乗車への配慮	○	○	○	○
	スムーズな運行への配慮	○	○	○	○
	乗車予定の共通把握	○	○	○	○
	保護者への配慮	○	○	○	○

T：T保育者 M：M保育者 ○:事例あり —：事例なし

2. 登降園バスにおける保育者の「教育活動」
登降園バス内で保育者によって行われる「教育活動」はさらに、「子どもの発言・質問の活用」「周囲の環境への着目」「その日・それ以降の活動

への導入・意欲喚起」「その日・それ以前の活動の振り返り」「歌」「絵本」「挨拶」「マナー」といった8つの小カテゴリーに分類された。表2-1から表2-8は、それらの事例である。

表2-1「教育活動：子どもの発言・質問の活用」の事例（保育者T：登園）

保 育 者 T	今日もお外の水道は使えるよ。あのお砂場でいっぱいさ、あの一お山つくったりさ、池つくったりしてお水入れてみれば？
年少女児N	消えちゃうの[砂場に水を入れると水が消えてなくなるという意味]
保 育 者 T	え？お水消えちゃうの？お砂場のお水？なんで？
年少女児N	溶けちゃう
保 育 者 T	溶けちゃうの？お砂場さんにお水入れると？そうなんだ。そんなこと知ってるんだ。○組[年長]さん知ってた？
年長女児D	固まる[砂に水をかける土が固まるの意味]
保 育 者 T	固まるの？何が？
年長女児D	ドロドロ
保 育 者 T	[年少女児Nに向かって]あ、泥の土は固まるらしいよ

下線:該当箇所 []:筆者の補足

表2-1は、登園バス内での保育者Tと子どもとのやりとりである。バスの中では、子どもの発する言葉1つ1つに丁寧に保育者Tが応えながら、保育者Tと子どもとの会話が続いていた。「砂場に水を入れると水が消えてなくなる」という意味の年少女児Nの発言は、年少児なりの遊びの中での「気づき」であり、それを大事に受け止め活用する形で保育者Tが会話を続けていることがうかがわれる。「なんで？」と問いかけたり、近くにいた年長児にも「知ってた？」と声をかけたりし

て、年長児からも「砂に水をかけると土が固まる」という意味の言葉を引き出し、砂に水をかけると溶けるように消えていくこともあれば、土をドロドロに固まらせることもあることを伝えている。子どもが偶然発した言葉も無駄にせず、活用することで、教育的意図をもった会話となるよう配慮されていることが推察される。同様の事例は、降園バス内の保育者T、登園バス内の保育者M、降園バス内の保育者Mすべてにおいて認められた。

表2-2「教育活動：周囲の環境への着目」の事例（保育者T：登園）

保 育 者 T	そうそうそう。ねぇ。(ブドウ畑を指しながら) ほらほらほら見て。緑のぶどう。ほら
年中男児H	ほんとだ
保 育 者 T	すごいね。実が大きくなって。向日葵も咲いてるよ。ほら

下線:該当箇所 ():動作

表2-2は、登園バス内での保育者Tと子どもとのやりとりである。保育者Tは、バスの窓から見える周囲の環境に子どもたちが着目できるように言葉をかけている。ここには、子どもたちがその季節ならではの自然に気づけるようにという教育的意図が感じられる。毎日同じ道を走るバスだ

からこそ、季節の変化もより捉えやすいであろう。バスの窓から見える景色をいかして、保育者Tがさりげなく教育活動を行っていることがうかがわれる。同様の事例は、登園バス内の保育者Mにも認められた。

表 2-3 「教育活動：その日・それ以降の活動への導入・意欲喚起」の事（保育者M：登園）

保育者M	今日はみんなが、とっても待っていた・・・
子どもたち	お弁当！
保育者M	おー！やっぱりお弁当！お弁当持ってきた人～
子どもたち	はい
保育者M	素晴らしい。じゃあ聞くよ。おにぎり持ってきた人
子どもたち	はい
保育者M	ほうほうほうほう じゃあサンドイッチ持ってきた人
年中女兒M	・・・(遠慮がちに手をあげる)
保育者M	いいね。先生サンドイッチ大好き [おかずの例を挙げながら問いかけを続けていく]

下線:該当箇所 ():動作 []:筆者の補足

表 2-3 は、登園バス内での保育者Mと子どもとのやりとりである。この日は月1度の「お弁当の日」であった（A幼稚園では通常は給食が提供されている）。保育者Mは、「おにぎり」「サンドイッチ」「ハンバーグ」「バナナ」「りんご」など、お弁当の中身を次々子どもたちに問いかけていていた。「家から持ってきたお弁当をみんなで食べる」というその日の活動を楽しみに思う気持ち

が子どもたちの中で膨らむように、その日の活動がより充実したものになるようにという保育者Mの意図が感じられる。こうしたその日の活動への導入や意欲喚起は、登園バス内の保育者Tにも認められた。さらに、降園バスでも、翌日以降の活動への期待や意欲を喚起するような言葉がけが、保育者Tにも保育者Mにも認められた。

表 2-4 「教育活動：その日・それ以前の活動の振り返り」の事例（保育者T：降園）

保育者T	[自由遊びの際]ミッキーお団子つくったからね。今日。○[年少]組さんに見せてあげた？今日
年長女兒R	ふんじゃった
保育者T	ふんじゃった！？そうなんだ。小っちゃいからわかんなくてふんじゃった？またつくればいいよ。ね。みんなで
年長女兒R	これで2回目
保育者T	だってこの間つくったミッキーお団子もその日のうちに壊れちゃったでしょ？
年長女兒R	土によって違う
保育者T	そうだね。またつくろうね [運転手に向かって]お団子でね、運転手さん。ゼーンぶ、お団子でミッキーをつくったんだよね
運 転 手	へー
保育者T	全部丸いお団子を、色んな大きさのをつくってね、それを合体してミッキーになるんだよね。目も、耳も口も全部丸でね？可愛いミッキーお団子つくったよね
年長女兒R	ミニーつくった
保育者T	今日、ミニーもつくったの？そうなんだ
運 転 手	そんなに固まる土があるんですか？
保育者T	ぎゅうぎゅう握ってね？頑張ったんだよね？でも壊れちゃったんだね。またつくろう。そんなに頑張ったんだもん。泥だらけで

下線:該当箇所 []:筆者の補足

表2-4は、降園バス内での保育者Tと子どもとのやりとりである。その日の遊びを会話の中で振り返っている。「可愛いミッキーお団子つくったよね」「頑張ったんだよね」と称え、2回も壊れてしまったというその子に「またつくろう」と声をかけ励ましている。その日の活動を振り返る

ことで、さらにその活動が子どもによって意欲的に発展されていくようにという保育者Tの意図が感じられる。こうしたその日の活動の振り返りや意欲喚起は、登園バス内の保育者M、降園バス内の保育者Mにも認められた。

表2-5「教育活動：歌」の事例（保育者T：登園）

年長女児R	先生、イルカの歌！
保 育 者 T	<u>あ、そうだ。あのね、○[年長]組さんがね、昨日ね、V先生がお歌教えに来てくれたの。でね、新しいお歌教えてもらっちゃったの。それは、みんなが暑くなって水族館とかに行くと、ショーを見せてくれるんです。キュッキュッて鳴いたりする。ジャボーンでジャンプしてこういう杵をびゅーってくぐったり・・・</u>
子どもたち	みたことある！
保 育 者 T	イルカって知ってる？
子どもたち	イルカ知ってる 水族館で見た！
保 育 者 T	<u>うん</u> <u>イルカショー見たことある人？</u>
子どもたち	はい みてない
保 育 者 T	<u>みてない？ほんと。じゃあ今度見せてーってお母さんに言ってごらん。</u> <u>それでね、イルカのお歌を教えてくれたの</u> [立ってしまう年中男児Hに対して]Hくん座れるかな？ <u>そう、でね、昨日教えてもらったばかりだから○[年長]組さん覚えてないかもしれないけどみんな聞いてくれる？新しい歌</u>
子どもたち	うん
保 育 者 T	<u>じゃあいこう、○[年長]組さんいってみるよ。さんはい</u>
保 育 者 T 年長児たち	(振りを付けながら『イルカはザンブラコ』を歌う)
保 育 者 T	<u>こういうお歌。波をね、ザブーンザブーンってイルカさん跳ねるんだって</u>

下線:該当箇所 ():動作 []:筆者の補足

表2-5は、登園バス内での保育者Tと子どもたちとのやりとりである。この場面の直前にも、子どもたちは全員で「あわてんぼうのパパ」という歌を歌っていた。その後、年長女児Rが「先生、イルカの歌！」と「イルカはザンブラコ」の歌を歌うことをリクエストしたことをきっかけに、保

育者Tは年少児・年中児に年長児が歌を聴かせるという活動を展開していった。子どもたちが歌で表現されている世界をイメージしやすいような言葉がけもなされている。保育者Tが歌を活用して教育活動をおこなっていることがわかる。

表2-6「教育活動：絵本」の事例（保育者M：降園）

保育者M	<u>（絵本「自然 カブトムシ」の中のカブトムシが樹液を吸っているページを見せながら）樹液って何？知ってる人？</u>
年長男児B 年少男児I	木のかたまり
保育者M	<u>木のかたまりか。ちょっとちがうなあ</u>
年長女児D	<u>（手をあげて）はい</u>
保育者M	<u>はい。Dちゃん</u>
年長女児D	蜜のこと
保育者M	<u>そうです。蜜です。木から出てくるね、甘い甘い蜜があるんだって。それがね、虫が大好きなんだから、それが出る木のところに集まってくるんだって。すごいね</u>

下線:該当箇所 ():動作

表2-6は、降園バス内での保育者Mと子どもとのやりとりである。この日はちょうど年長児たちが飼育していたカブトムシが蛹から羽化した日の翌日であった。保育者Mは「自然 カブトムシ」という絵本を事前にバス内に持ち込み、子どもたちに読み聞かせ、さらに、クイズのようにして子どもたちに問いかけながら、絵本の内容を子ども

たちがより理解できるようにもしていた。こうした絵本を活用した教育活動は、降園バス内の保育者Tにも認められた。園での子どもたちの体験と関連のある絵本をあえて活用している点にも、園での保育と園バス内での保育とのつながりがうかがわれ注目される。

表2-7「教育活動：挨拶」の事例（保育者T：登園）

保育者T	<u>（バスから降りて）おはようございます。はい、D [年長女児] ちゃんおはよう</u>
保護者	お願いします
保育者T	<u>はい。いってまいりませす。（バスに乗り、Dが素早く座れるように誘導する。）はい、いってきませす。はい、オーライです。（手を振りながら）はい、じゃあ、お母さんにいってきませすって。いってきませす</u>

下線:該当箇所 ():動作 []:筆者の補足

表2-7は、保育者Tが登園バスに乗車してくる子どもを迎える場面である。保護者と子どもに対し、「おはようございます」「おはよう」と自ら挨拶をしてモデルを示し、「お母さんにいってきませすって。いってきませす」と、子どもに親への挨拶を促している。こうした挨拶を大切にしたかわりには、登園降園ともに、保育者T、保育者

M両者に頻繁に認められた。日々の登降園にかかわるバスが、子どもたちが挨拶を身につける重要な機会となっていることがわかる。前述の通り、先行研究でも、大半の保育者が園バス内を子どもが生活習慣を学ぶ場と捉えていることが明らかにされているが（西村2012:227）、本研究でもこのことを裏付ける結果が得られた。

表2-8「教育活動：マナー」の事例（保育者T：登園）

年少男児C	<u>[次のバス停が見えてきて] あ、N [年少女児]ちゃんいた</u>
保育者T	<u>あ、Nちゃんいたね。よかったね。さあ、お友達乗ってくるから端によってあげよう。みんなが座れるようにしてあげるの優しい人だよ。どうぞって。一緒に座ろうって</u>

下線:該当箇所 ():動作 []:筆者の補足

表2-8は、降園バス内での保育者Tと子どもとのやりとりである。保育者Tは、みんなが座れるように気遣うという、登降園バス内に限らず大切なマナーについて年少男児Cにさりげなく伝えている。先行研究でも、大半の保育者が園バス内を子どもが乗車のマナーを学ぶ場と捉えていることが明らかにされているが（西村2012:227）、本研究でもこのことを裏付ける結果が得られたと言える。

3. 登降園バスにおける保育者の「子ども同士の関係づくり」

登降園バス内で保育者によって行われる「子ども同士の関係づくり」はさらに、「同年齢交流」「バス内異年齢交流」「バス外異年齢交流」「トラブルの予測と回避」「座る位置の調整」といった5つの小カテゴリーに分類された。表3-1から表3-5は、それらの事例である。

表3-1 「子ども同士の関係づくり：同年齢交流」の事例（保育者T：登園）

年少男児E	今日○コースなの？[今日自分は預かり保育に残るのかの意味]
保育者T	うん、○コースだよ。Eくんは
年少男児E	N[年少女児] ちゃん？
保育者T	N[年少女児] ちゃんは分かんないけど、多分○かなー？いつも○だから
年少男児E	Eくんは？
保育者T	Eくんは○コースだよ、今日
年少男児C	N[年少女児] ちゃんと同じだね
保育者T	<u>そうだね。N[年少女児] ちゃんいつも○だもんね。</u> [ずっと黙って座っている年長女児Bに対して] Bちゃん大丈夫？具合悪かったら言ってよ？ [後ろを向いて立っている年少男児Eに対して] さあEくんそろそろ動くから前向こうか。ね？
年少男児C	E[年少男児] くん
年少男児E	○○[預かり保育の場所] に行くんだよ
保育者T	<u>ほらEくんがちゃんと前向いたからバス出発したよN[次に乗車してくる年少女児] ちゃんたち、[Eくんたちが] 待ってるから来るかなー？</u>

下線:該当箇所 []:筆者の補足

表3-2は、登園バス内での保育者Tと子どもとのやりとりである。保育者Tは、次に乗車してくる同じ年少組のNちゃんのことを尋ねてくるEくんに応えながら、「Nちゃんたち、[Eくんたちが]待ってるから来るかなー？」と言葉をかけて

いる。同じバスを利用している同年齢の子どもたち同士の関係づくりにも配慮していることがうかがわれる。同様の事例は、登園バス内の保育者M、降園バス内の保育者M、降園バス内の保育者Tにも認められた。

表3-2 「子ども同士の関係づくり：バス内異年齢交流」の事例（保育者T：登園）

保育者T	[バス内は、保育者Tと運転手と最初に乗車した年少男児Aのみ] (乗車リストの紙を見ながら) [近くに座るAに向かって] <u>次、お姉ちゃん乗ってくるからね[年長女児が乗ってくるという意味]</u> [運転手に向かって] 次、B[年長女児] ちゃんだけです。乗ってくるの
年少男児A	○[年長] の1組？
保育者	<u>そう。○[年長] の1組さんのお姉ちゃん。よくわかってる。いるかな？お姉ちゃんいたいた</u>

下線:該当箇所 ():動作 []:筆者の補足

表2-8は、登園バス内での保育者Tと子どもとのやりとりである。保育者Tは、次に乗車してくる年長児をあえて「お姉ちゃん」と呼び、既に乗車していた年少男児Aに向かって「次、お姉ちゃん乗ってくるからね」と声をかけていた。「○[年長]の1組？」と尋ねてきた年少男児Aに「そう。○[年長]の1組のお姉ちゃん。よくわかってる」と言葉を返している。保育者Tが、同じバスに乗車する異年齢の子どもたちの間で親し

みの情が生まれるように配慮していることがうかがわれる。こうした異年齢の子ども同士の関係をつくっていかうとするかかわりは、降園バス内の保育者T、登園バス内の保育者M、降園バス内の保育者Mにも認められた。先行研究でも、大半の保育者が園バス内を「異年齢や他のクラスの子どもが交流できる場」と捉えていることが明らかにされているが（西村2012:227）、本研究でもこのことを裏付ける結果が得られたと言える。

表3-3「子ども同士の関係づくり：バス外異年齢交流」の事例（保育者M：降園）

保育者M	<u>ね、○[年長]の1組さんのカブトムシも昨日ね、3時29分にね、皮を全部脱いだの。（絵本「自然カブトムシ」の中のカブトムシの白色の羽を指しながら）それで、こんな色だったの。でもね、今日、おはよう、カブトムシくんって先生が見たらね、（絵本「自然カブトムシ」の中のカブトムシの黒色の羽を指しながら）この色だったの</u>
年少男児I	僕も見た
保育者M	<u>見た？</u>
年中女児M	見てない
保育者M	<u>[年中女児M向かって]じゃあ見に来て</u>

下線:該当箇所 ():動作 []:筆者の補足

表3-3は、降園バス内での保育者Mと子どもとのやりとりである。年長児が飼育していたカブトムシが羽化したばかりであることを、保育者Mは年少児・年中児に伝え、「見に来て」と誘っている。バス内で異年齢の子どもたちが交流できるようにするだけでなく、バス内での会話をきっか

けにバス外でも異年齢の子どもたちの交流が生まれるように配慮していることがうかがわれる。こうしたかかわりは、登園バス内の保育者M、登園バス内の保育者T、降園バス内の保育者Tにも認められた。

表3-4「子ども同士の関係づくり：トラブルの予測と回避」の事例（保育者T：登園）

保育者T	<u>[年少男児Eの頭に、自分の帽子をぶつけていた年少女児Lに対して] あらあらあらあら？ Lさん、どうかしら？ Lちゃんのお帽子被っておきなさい</u>
年少女子L	いや
保育者T	<u>じゃあちゃんと持ってて</u>
年少女児L	<u>(帽子でたたくのをやめ、帽子を持って静かに座る)</u>

下線:該当箇所 ():動作 []:筆者の補足

表3-4は、登園バス内での保育者Tと子どもとのやりとりである。バス内は、開放的な戸外とは異なり限られた空間で、子ども同士の物理的距離も近い。そのため、トラブルも起きやすい。保育者Tは、自分の帽子を別の年少児にぶつけてい

た年少児Lに気付き、声をかけていた。バス内では、こうしたトラブルを予測し回避しようとする保育者のかかわりも重要であることがうかがわれる。

表 3-5 「子ども同士の関係づくり：座る位置の調整」の事例（保育者T：登園）

保育者 T	[バス停で子どもたちがバスに乗り込んだところで] はい座ってくださいーい。[座ろうとするが、席がいっぱいで座れなくなっている年少児Kに] こね、ここいっぱいだからこっち座る？
年少児K	うん
保育者 T	うん。いいよ。はい、じゃあ座って

下線:該当箇所 []:筆者の補足

表 3-5 は、登園バス内での保育者Tと子どもとのやりとりである。補足インタビューでも、保育者が子どもたちの座る位置について常に配慮していることが確認された。どこに座りたいかのそれぞれの子どもの気持ちも尊重しつつ、バスに酔いやすい、体調不良といった各子どもの状態、一緒に座るとトラブルになりやすいといった子ども同士の関係性などもふまえ、座る位置の調整を図っ

ていることがうかがわれた。

4. 登降園バスにおける保育者の「安全への配慮」

登降園バス内で保育者によって行われる「安全への配慮」はさらに、「子どもへの事前予告」「子どもへの助言援助」「運転手との連携」といった3つの小カテゴリーに分類された。表 4-1 から表 4-3 は、それらの事例である。

表 4-1 「安全への配慮：子どもへの事前予告」の事例（保育者T：登園）

保育者 T	[赤信号で停車していたバスが発車する際に] 動くから、前向こう。さあ、おりこう
-------	---

下線:該当箇所 []:筆者の補足

表 4-1 は、登園バス内での保育者Tの子どもたちへの言葉かけである。停車していたバスが再び発車する際に、事前に子どもたちにそれを伝え、

安全に乗車していただけるよう配慮している。同様の事例は、降園バス内の保育者T、登園バス内の保育者M、降園バス内の保育者Mにも認められた。

表 4-2 「安全への配慮：子どもへの助言援助」の事例（保育者T：降園）

年長女児T	[みんなでアサガオの話をしている最中に] だってTのマーク、アサガオだもん（席から立ち上がる）
保育者 T	そっかあ。じゃあTちゃん座ってよ
年長女児T	（席に座る）

下線:該当箇所 ():動作 []:筆者の補足

表 4-2 は、降園バス内での保育者Tと子どもとのやりとりである。バスの中でも後ろの方の席に座っていた年長女児Tが、保育者との会話の中で思わず立ち上がってしまった際に、その言葉を受け止めたのち、座ることを促している。子ども

たちとの会話を大切にする中でも、保育者が常に安全への配慮を続けていることがうかがわれる。同様の事例は、登園バス内の保育者T、登園バス内の保育者M、降園バス内の保育者Mにも認められた。

表 4-3 「安全への配慮：運転手との連携」の事例（保育者T：登園）

保育者 T	[バス停からバスが発車する際]（道路の確認を行いながら）後ろ来てます。オッケーです
-------	---

下線:該当箇所 ():動作 []:筆者の補足

表 4-3 は、登園バス内での保育者Tの対応である。運転手の安全確認のサポートをしていることがわかる。同様の事例は、登園バス内の保育者

M、降園バス内の保育者Mにも認められた。

5. 登降園バスにおける保育者の「体調への配慮」

登降園バス内で保育者によって行われる「体調

への配慮」はさらに、「個々の子どもの体調の把握」「バス酔いしやすい子への配慮」「眠い子への配慮」といった3つの小カテゴリーに分類された。表5-1から表5-3は、それらの事例である。

表5-1 「体調への配慮：個々の子どもの体調の把握」の事例（保育者T：登園）

保育者 T	はい、みんな元気ですね。さあ、元気に乗ったお友達のお名前を呼びます
子どもたち	はい
保育者 T	はい、自分のお名前のとき、元気よくお返事してください。いいですか？
子どもたち	はい
保育者 T	はい、では・・・A [少年男児] くん [一人ずつ名前を呼んでいく]

下線:該当箇所 []:筆者の補足

表5-1は、登園バス内での保育者Tと子どもとのやりとりである。全員が乗車し終わり、出席をとる場面であるが、子どもの顔色や返事をする声の調子などから、ひとりひとりの体調を把握しようとしていることがうかがわれた。具合が悪くなることなく、すべての子どもが園に無事到着できるよう配慮していることがうかがわれる。補足インタビューからは、保護者から子どもを預かった時点での子どもの体調把握は、園についてから

の担任との引継ぎの点でも重視されていることが確認された。補足インタビューからは、降園バスにおいても、それぞれの子どもの体調把握は、無事に家庭まで到着できるようにというだけでなく、保護者に子どもの状態を細やかに引き継ぐためにも重視されていることがうかがわれた。こうした個々の子どもの体調把握は、登園バス内の保育者M、降園バス内の保育者Mにも認められた。

表5-2 「体調への配慮：バス酔いしやすい子どもへの配慮」の事例（保育者T：登園）

保育者 T	[バス酔いしやすい年長女児Bに対して] Bちゃん大丈夫？ Bちゃん、具合悪くない？
年長女児B	うなずく

下線:該当箇所 []:筆者の補足

表5-2は、登園バス内での保育者Tと子どもとのやりとりである。バス酔いしやすい年長児Bに対し、保育者Tがバスに酔ってしまっていないか、気遣い尋ねている場面である。補足インタビュー

では、登園バスが1日の保育のスタートであるからこそ、バス酔い等、具合の悪い状態で子どもの1日が始まることのないよう、保育者Tが特にそうした点を気にかけていることも確認された。

表5-3 「体調への配慮：眠い子どもへの配慮」の事例（保育者M：降園）

保育者 M	[眠そうにしている年中男児Qに対して] いいよ、Qくん、寝ていいよ。起こしてあげるから大丈夫よ
年中男児Q	(眠そうにしている)

下線:該当箇所 ():動作

表5-3は、降園バス内での保育者Mの子どもへの対応である。眠そうにしている年中児Qに対し「寝ていいよ。起こしてあげるから大丈夫よ」と声をかけている。降園バスはその日の活動の疲れから、眠くなる子どもも多いことが推測される。バス乗車中の保育者は、こうした子どもへの配慮も常におこなっていることがわかる。同様の事例

は、降園バス内の保育者Tにも認められた。

6. 登降園バスにおける保育者の「情緒への配慮」
登降園バス内で保育者によって行われる「情緒への配慮」はさらに、「歓迎ムードづくり」「だまっている子どもへの配慮」「不安定な子どもへの配慮」といった3つの小カテゴリーに分類された。表6-1から表6-3は、それらの事例である。

表 6-1 「情緒への配慮：歓迎ムードづくり」の事例（保育者M：登園）

保 育 者 M	(ドアの前に立ちバス停に向かって大きく手を振る) (バスから降りながら) [保護者に向かって]おはようございます。おはようございます [子どもたちに向かって] お待たせ。おはようございます
年長女兒A	おはようございます
保 育 者 M	おはよ。素敵
年少女兒W	おはようございます
保 育 者 M	(手を添え、乗車の援助を行いながら) 元気よく来られた？あ～、良い子だ

下線:該当箇所 ():動作 []:筆者の補足

表 6-1 は、保育者Mが登園バスに乗車してくる子どもを迎える場面である。バス停が見えてくると、停車前からバス停にいる子どもたちに向かって大きく手を振り、「お待たせ。おはようございます」と声をかけ、挨拶を返してきた子どもに

「素敵」や「元気よく来られた？あ～、良い子だ」と賞賛の言葉をかけていた。歓迎ムードをつくることで、1日の保育のスタートを明るいものにしようという保育者Mの配慮がうかがわれる。同様の事例は、登園バス内の保育者Tにも認められた。

表 6-2 「情緒への配慮：だまっている子どもへの配慮」の事例（保育者M：登園）

保 育 者 M	[何も言わない年少女兒Wに対し] Wちゃん？ [お弁当の中身は何か尋ねる]
年長女兒A	[年少女兒Wの代わりに姉の年長女兒Aが] W [妹] もから揚げ
保 育 者 M	Wちゃんは？から揚げ入れてくれたかな？それともママ内緒かな？内緒？内緒？開けてびっくり～
年長女兒A	ソーセージも入ってる

下線:該当箇所 []:筆者の補足

表 6-2 は、登園バス内での保育者Mと子どもとのやりとりである。バスに乗車してから一言も話さない年少児Wに対し、保育者Mは、年少児Wが会話に入ってこられるよう、「Wちゃん？」

と声をかけていた。話しかけてくる子どもに応答するだけでなく、同時に黙っている子どもにも細やかに気を配っているのがうかがわれた。同様の事例は、降園バス内の保育者Mにも認められた。

表 6-3 「情緒への配慮：不安定な子どもへの配慮」の事例（保育者M：降園）

保 育 者 M	[朝から体調が悪く情緒も不安定であった年少男児Gがどこに座ったか確認しようとして] Gくんいる？Gくん
年少男児G	いる。ここに
保 育 者 M	Gくんタオル [安心できるように家から持ってきていたタオル] 持ってきた？
年少男児G	うなずく
保 育 者 M	うん。お利口。よし

下線:該当箇所 []:筆者の補足

表 6-3 は、降園バス内での保育者Mと子どもとのやりとりである。降園バスが発車する前に、朝から具合が悪く情緒も不安定であった年少児Gがどこにいるか確認し、優しく声をかけ、年少児Gが安心できる家庭から持参しているタオルを手

に持ってられるよう配慮していた。バス内でも個々の子どもの情緒に細やかに配慮していることがわかる。同様の事例は、登園バス内の保育者Mにも認められた。

7. 登降園バスにおける保育者のその他の役割
 以上見てきたもの以外にも、園バスにおいて保育者は、「個々の子どもの発言への応答」「持ち物確認」「快適な乗車への配慮」「スムーズな運行へ

の配慮」「乗車予定の共通把握」「保護者への配慮」といった役割を果たしていた。表7-1から表7-6は、それらの事例である。

表7-1「その他：個々の子どもの発言への応答」の事例（保育者M：登園）

保育者 M	[ハムスターを飼っているという姉妹、年長女兒A、年少女兒Wに対して] 2匹いるの？1匹？
年長女兒A	3匹
保育者 M	3匹もいるの！？すごい
年長女兒A	だって一番上のお兄ちゃんも飼ってるし、私も飼ってるし、W [妹] も飼ってるから
保育者 M	すごいじゃん。みんなでお世話してるんだ。実はね、先生のお家にもいたのよ。きなこでしょ。黒蜜でしょ。お餅っていうの。信玄餅

下線:該当箇所 []:筆者の補足

表7-1は登園バス内の保育者Mと子どもとのやりとりである。バス乗車中、子どもたちは保育者との会話を求めて、しきりと保育者に話しかけていた。保育者Mは、個々の子どもの発言ひとつひとつに丁寧に対応していた。教育活動、安全へ

の配慮をはじめ多岐にわたる役割を果たしながらも、個々の子どもの発言への細やかな応答もなされていた。同様の事例は、降園バス内の保育者M、登園バス内の保育者T、降園バス内の保育者Tにも認められた。

表7-2「その他：持ち物確認」の事例（保育者M：登園）

保育者 M	[年長女兒A, 年長男児Bに対して] 着替え持ってきたね？大丈夫ね？お弁当持った？
年長女兒A	持った

下線:該当箇所 []:筆者の補足

表7-2は登園バス内での保育者Mの対応である。その日の活動で子どもが困ることがないよう、忘れものがないか、園に着く前の段階で確認しようとしているのがうかがわれる。こうした持ち物確認は、降園バス内の保育者T、登園バス内の保

育者M、降園バス内の保育者Mにも認められた。特に、降園バス内では、家庭に持ち帰るべきものをバス内に置き忘れていないか、子どもたちに確認の声かけがなされていた。

表7-3「その他：快適な乗車への配慮」（保育者T：登園）

保育者 T	[大きな花を上にしたり下にしたりにしていた年中男児Hに向かって] Hちゃん大丈夫？お花重い？
年中男児H	大丈夫

下線:該当箇所 []:筆者の補足

表7-3は登園バス内での保育者Tと子どもとのやりとりである。年中児Hは、園でみんなに見せようと、大きなユリの花を持って乗車したが、しだいに花が重く感じられるようになったのか、花を上下に振り始めていた。それを見た保育者Tは、年中児Hに対して「大丈夫？お花重い？」と

声をかけていた。バス内という狭い空間の中で、少しでも子どもの負担を減らし快適に過ごせるようにという配慮がうかがわれた。同様の事例は降園バス内の保育者T、登園バス内の保育者M、降園バス内の保育者Mにも認められた。

表 7-4 「その他：スムーズな運行への配慮」の事例（保育者M：登園）

保育者 M	<u>「乗車時、まだ座れていない年長男児Bに対して」はい座りましょう （席に促す）</u>
-------	---

下線:該当箇所 ():動作 []:筆者の補足

表 7-4 は登園バス内の保育者Mの対応である。園バス運行では、各バス停にできる限り予定通りの時間に到着することが求められる。しかしながら、子どもがすべて席に座ったことが確認できなければ発車できない。そのため、乗車時には、ま

だ座れていない子に声をかけながら席へと誘導し、スムーズにバスが発車できるよう、運転手への配慮がなされていた。同様の事例は、降園バス内の保育者M、登園バス内の保育者T、降園バス内の保育者Tにも認められた。

表 7-5 「その他：乗車予定の共通把握」の事例（保育者M：登園）

保育者 M	<u>（紙に書きながら）「運転手と子どもたちと通園コースの変更を確認する」では、E [年長女児] ちゃんが○「預かり保育」。C [年長男児] くん,Y [年長女児] ちゃん○「預かり保育」。「降園時バスに乗るのは」D [年長女児] ちゃんだけね</u>
-------	--

下線:該当箇所 ():動作 []:筆者の補足

表 7-5 は登園バス内での保育者Mの対応である。朝、保護者に伝えられた通園コースの変更を声に出して言い、それらをその場で、運転手だけでなく、子どもたち自身とも一緒に確認し、子

どもたちが降園の際困らないように配慮していることがうかがわれる。同様の事例は、降園バス内の保育者T、登園バス内の保育者M、降園バス内の保育者にも認められた。

表 7-6 「その他：保護者への配慮」の事例（保育者M：降園）

保育者 M	<u>「子どもを引き渡す際、保護者に対して」たくさん運動してきました</u>
-------	--

下線:該当箇所 []:筆者の補足

表 7-6 は、保育者Mが降園バスから降りた子どもを保護者に引き渡す場面である。「たくさん運動してきました」と保護者にその日の園での様子を伝えている。補足インタビューでも、その日の子どもの様子を保護者に伝えることを保育者が重視していることがうかがわれた。バス停での保護者への対応も、園バスに乗車する保育者の重要な役割の1つであることがわかる。

IV. 総合考察

本研究では、登園バス内の保育者、降園バス内の保育者と子どもの様子の記録の分析を通して、登降園バス内で保育者がどのような役割を果たしているのかについて明らかにすることを試みた。

登降園バスで保育者が果たしていた役割は、表 1 に見る通り実に多岐に渡っていた。それらは大きくは、「教育活動」「子ども同士の関係づくり」「安全

への配慮」「体調への配慮」「情緒への配慮」「その他」にまとめられた。

「教育活動」については、保育者は、子どもが偶然発した言葉をいかして、教育的意味のある話を聞かせたり（「子どもの発言・質問の活用」）、バスの窓から見える景色に注目できるよう子どもに声をかけ、季節の変化などに気付けるようにしたり（「周囲の環境への着目」）、園に着いてからの活動がより充実したものになるよう、子どもたちの意欲が高まるような言葉をかけたり（「その日・それ以降の保育への導入」）、子どもたちがその日の活動を振り返られるような言葉をかけたり（「その日・それ以前の振り返り」）していた。このような園に着いてからの活動と、園バス内での活動とのつながりを大切にしたかわりは特に注目された。さらに、子どもたちと「歌」を歌ったり、「絵本」を読み聞かせたりといったスタイルでの教育活動も展開されていた。

また、「挨拶」や「マナー」を身につける機会としても重視されていることがうかがわれた。

「子ども同士の関係づくり」については、同じバスに乗車する同年齢の子どもたちの関係づくり（「同年齢交流」）が配慮されていただけでなく、同じバスに乗車する異年齢の子どもたちの間に親しみの情が生まれるようなかわりがなされていた（「バス内異年齢交流」）。さらに、興味深かったのは、バス内での会話をきっかけに、園に着いてからの活動の中で、異年齢の子どもたちが交流できるようにといった配慮もなされていた点である（「バス外異年齢交流」）。例えば、年長組で飼育していたカブトムシが羽化したことを、バスの中で年少児・年中児に伝え、今年年長組の保育室に見にくるよう誘うというものである。さらに、子ども同士が接近して座っている環境の中でトラブルに発展しかねない現象があればすぐに察知し、トラブルを回避できるよう対応するといったかわり（「トラブルの予測と回避」）も認められた。また、どこに座りたいかのそれぞれの子どもの気持ちも尊重しつつ、バスに酔いやすい、体調不良といった各子どもの状態、一緒に座るとトラブルになりやすいといった子ども同士の関係性などもふまえ、保育者は「座る位置の調整」も行っていた。

「安全への配慮」については、保育者は、発車前にそれを子どもたちに伝えたり（「子どもへの事前予告」）、立ち上がらないように言葉をかけたり、降車時に手を添えたり等、安全のための「子どもへの助言援助」を行ったり、さらには安全確認のために「運転手との連携」も図っていた。

「体調への配慮」については、乗車してきた子どもたちひとりひとりの名前を呼び、その返事を聞きながら、「個々の子どもの体調の把握」を行ったり、さらには、「バス酔いしやすい子への配慮」「眠い子への配慮」も細やかになされていた。登園バスでは、1日の保育のスタートであることが意識され、降園バスでは、1日の保育の締めくくりであること、また、子どもが1日の活動を終え疲れた状態であることなどが意識されているように思われた。

「情緒への配慮」については、バス停に向かって大きく手を振って、乗車してくる子どもたちを迎えるといった「歓迎ムードづくり」や、「だまっている子どもへの配慮」「不安定な子どもへの配慮」など

が認められた。他の様々な役割を果たしながらも、個々の子どもへの情緒の安定を図ることも常に意識されていることがうかがわれた。

その他、「個々の子どもへの発言への応答」「持ち物確認」「快適な乗車への配慮」「スムーズな運行への配慮」「乗車予定の共通把握」「保護者への配慮」などの役割も果たされていた。

以上、本研究では、登降園バス内において保育者が、安全面、個々の子どもの体調、情緒、子ども同士の関係づくり、さらには教育活動まで、様々な注意を払いながら、臨機応変に役割を果たしていることが明らかとなった。そこでは、実に28にもおよぶ様々な役割が認められた。こうした保育者のかわりにより、子どもたちは、安全に、かつ、体調面でも情緒面でも守られながら園バス内での時間を過ごせていたと言えよう。保育者のかわり次第で、園バス内は、子どもたちにとって、有意義な学びの場、友達との関係づくりの場となりうるものであることも確認できたと思われる。

付記

本論文は、山梨学院短期大学研究倫理規程に基づく「人の研究に関する研究倫理審査」により承認された(承認番号2016036)。

<引用参考文献>

- 1) 菊池達夫 (2015) 保育活動における安全確保と地域環境の活用 ―園バスを利用想定した作業課題を通して―. 北翔大学人間福祉研究. 18. 147-156
- 2) 若月芳浩 (2014) 通園バス. 保育用語辞典 第7版. 162
- 3) 西村実穂 (2012) 通園バスに関する保育者の考えと課題. ライフデザイン学研究. 8. 223-233
- 4) 横井一之 (2003) 送迎バス内の保育内容について ―領域環境の視点から―. 日本保育学会大会発表論文集. 56. 432-433
- 5) 浅野由子 (2005) 幼稚園・家庭・地域社会の連携からみた幼稚園バスにおける保育者の役割について. 日本女子大学大学院紀要 家政学研究科・人間生活学研究科. 11. 55-61
- 6) 八幡真由美 (1999) 保護者から見た園バス通園の実態と課題Ⅰ. 明和女子短期大学紀要. 14. 81-92